

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第147号

ななえ古写真物語 VOL. 147

信用組合のはじまり

七飯村信用購買販売利用組合

昭和13年ころ

本町地区



かつて開拓使七重官園が置かれていた時、七飯村には郡役所をはじめとする諸行政機関がおかれ、繁栄しているように見えたのだが、明治40年に警察署が函館へ移転したのを最後に、否応なしに町が衰退へ向かっているという気運が流れはじめていた。

そのような状況を憂い、村長だった木村広凱（ひろよし）は有志と相談し、おもに中小企業者へ低金利で資金を供給し、経済の発達と生活を向上させるため、信用組合を設立しようと考えた。しかし、当時の村民の中には、産業組合を知るものがほとんどなく、互助のため町内会ほどの大きさで、地域住民がお金を出し合い、貸付などを行っていた無尽講（ななえでは庚申講が当てはまるとされる）はあったが、肝心の金融機関が皆無であった。そのため、木村村長の考えに対して、賛同者が増えないという状況が続いていた。

時が経つにつれ、このままでは、どんどん衰退が進むと考えた有志たちが増え、全村をあげて産業の振興を計ろうという動きになり、大正9年、ついに村長ほか有志38名が宿願であった「有限責任七飯村信用購買販売組合」の設立にこぎつけた。

設立当初の組合事務所は、組合長が木村村長であったことから、七飯村役場の一画に置かれたが、組合が発展していく過程で、町村吏員と併行して事務を行うことが信頼性を欠く面もあると考え、昭和6年に七飯駅前に木造27坪ほどのバラック式の建物を建設した。この建物は、ペンキの色合いも田舎には不釣り合いだったため、よくカフェ（喫茶店）と間違えられたという。さらに、昭和13年には、現在の「JA七飯支店」のあたりへ移転した。おそらく上の写真はその時に撮影されたと考えられる。非常に簡素な木造2階建てで、2階の軒には何かの紋章のようなものも認められる。中は事務室のほか、購買部や会議室も設けられたという。

事業の方は、組合員の育成した米などを保管するための倉庫の建設や共同販売、購買、貯金など多岐にわたり、昭和15年には、組合員が1,400人を超えた。しかし、戦時体制下においての産業組合の使命は変化し、「護国貯金」や「愛国貯金」といった銃後の護りを固くするという名目で、半ば強制的に徴収された歴史もある。

兎にも角にも、ななえの産業組合のはじまりといえよう。

5日

夜の博物館後期講座第3夜を行いました。「箱館は写真の街だった」をテーマにNPO「箱館写真」の会の野戸氏を講師にお招きし、幕末から明治期に撮られた、箱館にゆかりのある人物や建物などの写真をエピソードと共に話して頂きました。函館は、ロシアから写真の古い技術が伝わった場所で、日本中でも、こんなに古い写真が、市民レベルで残っている場所は珍しいといえます。今は、古い写真はネット上で検索し、自由に拡大して見ることもできる便利な時代。記録のために残す写真の技術の変化も学べた講座でした。



11日

開催中だった企画展「生業と手しごと」に合わせ、ワークショップを行いました。大工さんが扱う道具を、実際に体験してもらおう！という企画で、墨付けやカンナ掛け、ノコギリで木材を切り、絵馬を完成させました。見たことはあっても、使ってみたことはない、というたくさんの初めてを経験された方も多く、コツが掴めるようになるまで、悪戦苦闘。親子やご夫婦で協力して作る姿が多く見られました。ものづくりの面白さ。感じて頂けましたか？



昔のくらしを学ぶ

町内の小学3年生が「昔のくらし」について学ぶため、歴史館では、昔の道具の解説や体験を行っています。教科書より身近で、わかりやすい解説と五感で感じる体験は、子どもたちの表情をいきいきと変えていきます。この日は、レコードプレーヤーを前に興味深々。じっと覗き込む姿が印象的でした。また牛舎に入ると、天井の高さに驚いた様子。道具のしくみや建物のつくりは、今と大きく異なります。疑問をもったら、いつでも足を運んで下さいね。



4月の予定

1	水
2	木
3	金
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木 新収蔵展OPEN予定
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木
24	金
25	土 ジュニア探検クラブ
26	日
27	月
28	火
29	水 昭和の日
30	木

4月の休館日はありません。

寄贈資料の紹介

右の写真は寄贈頂いたテレフォンカード。今では頼られることが少ない存在ですが、当時は広告媒体としても活躍しました。



編集後記 ~tawagoto~

よもやここまで大事になるとは想像もしていなかった。新型コロナウイルスである。当館も3月19日まで期間を延長し、臨時休館という措置を取らせて頂いた。皆さんにはご迷惑をおかけして申し訳ないと思っている。とはいえ、職員は勤務しているので、なるべく開館にそなえ、展示室のガラスケースを清掃したりしている。本紙が配布される頃、通常開館に戻る予定だが、先行きは不透明。願わくば、早い収束を。（やまだひさし）

~ピチャリ~
第147号

令和2年3月20日発行
七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail: rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp